

平成29年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2・16日実施)	総合評価（3月19日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	①生徒の意欲や主体的に学ぶ意欲を高める教育課程編成に努める。 ②すべての教科等において、学び直しや生徒が互いに学び合う学習活動を取り入れるなど、知識・技能の習得のみならず、それらを活用する力を育む魅力ある授業を展開する組織的な授業改善に取り組む。	②「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業改善を組織的に推進する。	②「授業・生活改善プロジェクトチーム」を中心に計画的に研究授業を実施し、教員の理解や技術を向上させることにより、「主体的・対話的で深い学び」を実現できる授業をより深化させる。	②生徒による授業評価の「授業の充実感」「生徒主体の授業の工夫」の肯定的評価が80%を超えたか。	②生徒による授業評価（後期）の「とても当てはまる、やや当てはまる」と回答した生徒の割合が、「授業の充実感」「生徒主体の授業の工夫」共に94%であった。	②「授業・生活改善プロジェクトチーム」を中心とした組織的な授業改善の取組が一定程度の成果をあげたと考える。今後も本校定時制らしい授業のスタイルを模索し、引き続き取り組みを進めたい。	②「授業・生活改善プロジェクトチーム」を中心とした本校定時制らしい授業改善の取組が成果を上げたことは評価できる。習熟度別授業の導入などの手厚い取組が、生徒の授業に向かう姿勢により変化を与えたと考えられる。	②生徒の授業に取り組む姿勢が向上している状況は評価できる。今後は授業の内容や質についてもより検討を加え、向上を図りたい。	②今年度の授業改善の取組を総括し、課題を明確にしたうえで、「授業・生活改善プロジェクトチーム」を中心とした組織的な授業改善の取組を一層推進したい。
2 生徒指導・支援	①生徒の基礎的・基本的な生活習慣の確立に努める。 ②生徒一人ひとりの抱える課題を踏まえた適切な支援を行う。	②研修を通して教員一人ひとりが力量を向上させ、生徒一人ひとりの抱える課題を的確にとらえ、適切な支援を行う。	②「こころサポート事業」の取組を通して教員の実践的指導力を向上させ、これまでに以上に生徒に寄り添った教育を展開する。	②生徒対象にアンケートを実施して取組の結果を把握し、その肯定的な回答が70%を超えたか。	②生徒生活アンケート（12/22実施）の「先生は悩みや進路などの相談にのってくれていますか」という項目で、「そう思う、ややそう思う」と回答した生徒の割合が83%であった。	②生徒一人ひとりの抱える課題への教員の対応という点では、生徒の理解が得られたと考える。学校は落ち着いた雰囲気になってきたが、生徒の基礎的・基本的な生活習慣の確立という点では課題も残るので、今後は取組を重点化して進めたい。	②入学式と卒業式の双方を見学し、生徒の成長を目の当たりにすることができた。この陰にある日ごろの取組、手厚いサポートが見て取れる。生徒の心身両面の成長が適切に促されていると思う。	②「こころサポート事業」の2年間の取組を通して、教員の専門性や実践的指導力が一定程度向上したこともあり、生徒の学校での生活はかなり落ち着いた。一方、個々の生徒の持つ課題は多種多様であり、より一層の指導の充実が求められている。	②「こころサポート事業」3年目の取組の課題を明確にし、教員の専門性や実践的指導力を向上させるとともに、個々の生徒の持つ様々な課題により適切に寄り添っていける体制を充実させる。
3 進路指導・支援	①豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的に自立することのできる生徒の育成を図る。 ②卒業と進路希望の実現に向けたきめ細かい指導を行う。	①学校行事や全校集会、テーマ学習等をいかして、生徒の人間性や社会性を培い、社会的・職業的な自立を促す。	①学校行事や全校集会、テーマ学習等を工夫し、豊かな人間性や社会性を培い、社会的・職業的な自立の基礎を培う。	①生徒対象にアンケートを実施して取組の結果を把握し、その肯定的な回答が70%を超えたか。	①生徒生活アンケート（12/22実施）の「学校行事やテーマ学習は、社会に出てから役に立つと思いますか。」という項目で、「そう思う、ややそう思う」と回答した生徒の割合が83%であった。	①学校行事やテーマ学習等による人間性や社会性の育成という本校のスタイルは概ね軌道に乗ったと考えるが、これまでの取組を総括しつつ、新たな社会的課題への対応という視点から現状の見直しが必要な時期だと考える。	①キャリア教育につながるテーマ学習等が、生徒の進路意識の醸成に役立っている。「介護」等の今日的なテーマも、進路意識の喚起には重要で、進路実績にもつながっている。学校行事等で、生徒が講話を聴く姿勢も向上しており、学校が落ち着いてきている。	①生徒は、何事にも真摯に向き合っていこうとする姿勢を一定程度身につけることができた。一方、社会に出るにあたり、コミュニケーション力が十分とは言えない面があり、この部分での教育が求められている。	①県西地区若者サポートステーションとの連携事業である「おだていカフェ」の充実やハローワークとの連携を深めることで生徒の健全な職業観を育成し、「生きる力」を育てていく。

	視点	4年間の目標 (平成29年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月2・16日実施)	総合評価(3月19日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	地域等との協働による、地域に開かれ、地域と共にある学校づくりを進める。	地域の方々との連携を深めるため、ボランティア活動を行う。	生徒の地域ボランティア活動としての学校周辺の清掃活動を、より多くの参加を得て行うように工夫する。	生徒の地域ボランティアで学校周辺の清掃活動の参加者が延べ100人以上となったか。	4回の取組の結果、延べ80人の生徒が地域ボランティア活動に取り組んだ。	夜間定時制という時間的制約から、生徒による直接の地域等との協働には限界があるが、31年度からのコミュニティ・スクール化に向けて、多様な視点での検討が必要である。	ボランティアによる学校周辺の清掃活動は評価できる。地元自治会として、街路灯の整備や、駅周囲の防犯カメラの設置という形で、生徒の登下校時の安全を支援したい。	夜間定時制という制約上、活動には一定の制限があるが、その中でもできる取組は実践できたと思う。今後は異なる視点からも取組を考えていきたい。	活動という視点からだけではなく、情報発信という視点からも取組を検討したい。
5	学校管理 学校運営	①生徒の安全、安心が確保された学校づくりを進める。 ②事故・不祥事のない、信頼される学校づくりを進める。	①防災教育の在り方について検討し、より実践的な取組となるように工夫する。	①生徒の主体的参加を促す防災訓練等の内容を検討し、より実践的な訓練を行う。	①防災訓練等の後に生徒対象にアンケートを実施し、訓練の内容がより実践的であったと肯定的な回答をする生徒の割合が70%を超えたか。	①防災訓練アンケート(11/15実施)の「防災訓練を通して、発電機や簡易トイレの使い方を理解できた。」という項目で、「よくできた、できた」と回答した生徒の割合が90%であった。	①防災訓練の準備等に生徒が主体的にかかわる体制を推進できたが、訓練の場だけでなく、日常的に行う取組についても考えていきたい。	①いざという時、生徒たちだけで動けないのでは意味がないので、こうした主体的、実践的な防災訓練の在り方は大切であり、評価できる。	①地道な平常時の取組の積み重ねが、いざという場面で重要になってくるという点から、今年度の取組は評価できると考える。今後は、災害のみに限定せず、様々な視点から生徒の安全、安心が確保された学校づくりを考えていきたい。	①学校の現状を分析し、弱みとなっている課題を洗い出して、その対応を考えていきたい。